

1. 授業から学んだこと

私は、3週間で全16回の授業を行なった。そのうち、研究授業が2回あった。授業から学んだこととして、私たちの時と今の生徒たちの運動能力差が大きく異なったため、描いていた授業計画ではレベルが高すぎたり、逆に低く考えすぎて面白くない授業になってしまったりと二極化が激しかった。実態が伴わないことは特別なことではないため、その時に、できる子に対して退屈な授業にならないようにどのような工夫ができるか、工夫ができるだけの引き出しが自分にあるのか、また、できない子ができるようになるためにポイントを押さえる確に体現化させることがすごく難しかった。自分ができることは当たり前で簡単だが、相手に「させる」ことの難しさを痛感した。

2. 生徒との交流で学んだこと

生徒との交流で学んだことは、自分が全力で楽しんだ先に生徒もついてくると言うことです。私が実習に行っている期間に、中学はスポーツ大会、高校は体育祭がありました。授業ではない時間に見る生徒の様子はいつもとは異なり、全力で楽しもうとしている子、めんどくさそうな子との差が激しかったように思います。通常の授業でもそうですが、教える側が心から楽しんでいる状態の時にようやく生徒にも笑顔が見られました。休み時間や昼休憩の時も、自分からひたすら喋りかける、時間を使う、しっかり見てあげる、そうすることで生徒からも「この先生見てくれているなむ」と気づき、信頼してくれることがわかりました。現場に出た際にも、まずは注意しようとせず、しっかり生徒を見る、その子が力を発揮できる場所はどこなのかを知りアプローチすることが大切だと感じました。

3. 職員室や教官室での様子から学んだこと

前期に実習に行った人たちは先生は本当に忙しいと言っていましたが、私が行った学校ではそれほどバタバタしている感じではなかったです。17:30には帰宅でき、朝は8:00出勤と、私立だけあって働きかたの面はすごく改革されていました。その中でも、実行委員や幹部の先生方は17:30帰宅ができていない状態であったり、校内を走り回っている様子も見られました。業務時間中、自分の仕事が終わっていても生徒が歩いてくると顔を伺う先生方の姿勢であったり、先生同士でも困り事があったら共有して助け合っている姿がとても印象に残り、私が学生生活本当に楽しく毎日を過ごさせていただけなのはこのように先生方が時間を使ってくださったからなんだと感じました。私が現場に出た際にも、目の前の生徒にとって何をしてあげられるのか、生徒にとってためになることは何かを常に考え続けられるようになりたいと感じました。

4. 教育実習全般にわたって

やるからには徹底的にやり切る3週間にしようと思った実習でした。そのため3時間しか寝れない日が続いたのは確かです。指導案も、17枚と長丁場になり、指導教官の先生を困らせました。その分、得られるものはとても大きかったです。全力でやり切ってもやはりまだまだ改善すべきところがあるから

こそ、自分が本当にできていないところに気づくことができました。それ以上にお褒めの言葉もいただきました。挨拶から徹底的に行うこと、当たり前を当たり前にすることでそれだけで周りの実習生と差が付きました。自分が全力で取り組んでいると、生徒がそこについてきて、関わりも多くなります。そして先生方からも様々なチャンスをいただき、予定していた以上に授業をさせてもらえたり、周りが4年生の中、実習生代表で挨拶をさせていただいたり、中学3年生全体の前で話をできるきっかけを与えていただいたりと、知識や歴が周りより追いついていない中でも全力で取り組んだからこそ経験でき、感じられるものがあることに気づきました。研究授業も保険と体育の2回行い、管理職の先生方からは卒業したら一緒に働かないか？というようなお声がけもしていただきました。どれもこれも、生徒がいて、そして指導教官の先生が夜遅くまで残って実習のサポートをしてくださったからだと思います。その感謝を忘れず、現場に出た際には実習で経たことを活かして働いていきたいです。